

穴吹不動産流通(株)鹿児島店

「市況レポート(2023年2月)」

エディオン跡の加治屋町1番街区に再開発ビル計画5600平方メートル、近く準備組合設立
南日本新聞記事より

鹿児島市14日、加治屋町1番街区でマンションを主体とした複合ビルの再開発事業が計画されていると明らかにされました。地権者でつくる任意の協議会が昨年11月に発足されているそうです。鹿児島市は同日、2023年度当初予算案を発表し、既存建物の調査費約2600万円を計上したとのこと。市街地まちづくり推進課によると、21年10月に閉店した家電量販店エディオン鹿児島本店があった一帯。敷地は電車通り約160メートルに面した5600平方メートルほどで、大半はJR九州所有となっています。協議会には地権者22者のうち14者が参加し、残る地権者も前向きな意向を示しているといいます。複合ビルの高層階はマンション、低層階は街歩きを楽しめるような商業施設が計画されているとのこと。協議会は今年の春、再開発に向けた準備組合を設立する予定。計画地はJR鹿児島中央駅と天文館の間に位置し、市は土地計画決定後に補助金を交付するとのこと。

2023年2月日本銀行鹿児島支店 鹿児島県金融経済概況より

【概要】 鹿児島県の景気は、持ち直している。 すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、持ち直している。観光は、着実に持ち直している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。生産は、弱めの動きとなっている。企業部門の動向を短観(12月<鹿児島・宮崎両県集計分>)で見ると、景況感は、改善している。設備投資は、高水準で推移している。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体として緩やかに改善している。

【各論】 1. 個人消費 百貨店・スーパー販売額、家電販売額、乗用車新車登録台数(含む軽自動車)のいずれも、前年を上回って推移している。 2. 観光 主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回った。 3. 公共投資 公共工事請負金額は、前年を下回って推移している。 4. 住宅投資 新設住宅着工戸数は、分譲を中心に前年を上回った。 5. 生産 鉱工業生産指数(季節調整済)は、食料品、窯業、土石製品を中心に前月を下回った。 6. 雇用・所得環境 有効求人倍率(季節調整済)は、上昇した。現金給与総額は、前年を下回って推移している。常用労働者数は、前年を上回って推移している。 7. 物価 消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、前年を上回って推移している。 8. 金融面 預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、前月並みとなった。企業倒産件数は、前年を上回った。

【まとめ】鹿児島県内におきまして、景気は持ち直されております。不動産のご購入はもちろんですが、弊社では中古住宅購入後のリノベーションのご相談にも対応が可能です。ご購入と合わせて、リフォームに関してましてもぜひ一度弊社までお気軽にお問合せ下さい。